

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.316

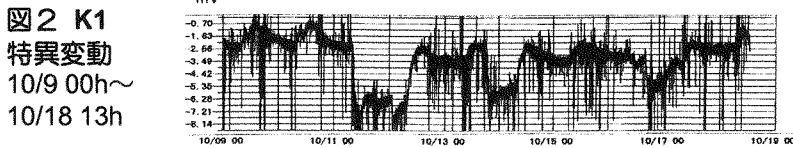
2021.10/18 (月曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 長期変動 続報 「静穏だったK1に10/11~特異変動出現」 直前特異である場合=10月22日±2 発生を支持 但し直前特異では長すぎる まだ前兆期間だった可能性 (10/19 or 20 静穏化?) =11月12日±2 発生の可能性? CH29 完全静穏化を待ちたい

K10 極大 (4/17.5) ~直前特異 (9/17.5) Tmap : Tpa = 5.7 : 1 → 10月20日±3
K10 極大 (4/17.5) ~変動終息 (9/18.0) Tmap : Tpp = 3.9 : 1 → 11月10日±3

極大8/13.0認識 Tmap : Tpp = 3.9 : 1 10/19.0終息の場合 → 11月11日±3
10/20.0終息の場合 → 11月12日±3



極大8/8.0認識 Tmap : Tpp = 3.9 : 1 10/18.5 終息の場合 → 11月12日±3
10/19.5 終息の場合 → 11月13日±3

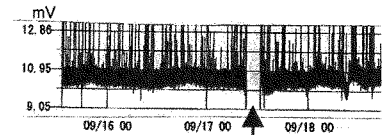
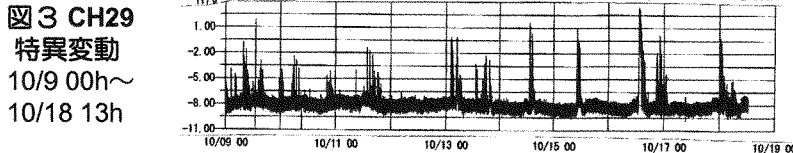
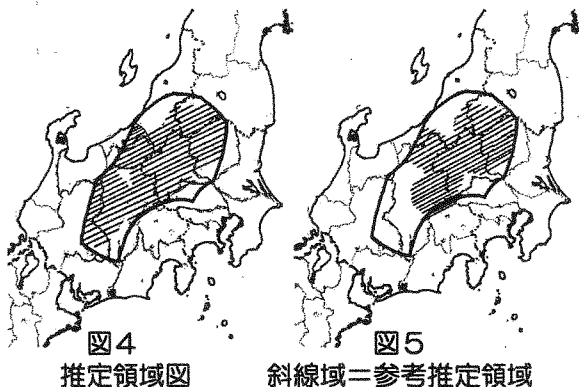


図1 K10 9/17.5 特異

No.1778長期継続前兆変動は、9/17.5に高知観測点K10に短時間の特異変動が観測され、K10のPBF 4/17.5極大に対する直前特異である場合は10月20日±3 発生の可能性が考えられ、K1が10/4以降静穏化したこと等から10/22±2発生の可能性が考えられること。または、八ヶ岳のCH29特異変動が完全終息するまで発生時期は計算できないことの2種の可能性を報告致しました。その後、表題・図2のとおり、10/11から高知観測点のK1に特異変動が出現し出しました。この特異出現当初はK1の極大8/13.0

に対する直前特異の可能性も考え (直前特異10/9.3の場合は10/22±2を支持)、その後のK1の特異変動の動向を観測していました。直前特異である場合は2~3日で静穏基線に戻ることが予想されましたが、図2のとおり、本日午後にやっと静穏化してきました。従って直前特異では長すぎる見解です。直前特異でない場合は10/22±2発生は考えにくいこととなります。

では図1に示したK10の特異は何かという問題ですが、K10は4/17.5極大でPBFが出現した後、8/19にやや長時間特異が観測されています。極大がPBF変動という前兆変動形態に対し、前兆期間中の変動が特異変動という形態は過去例がなく確度は低い見解ですが、9/17.5特異は静穏化直前の変動であった可能性が考えられます。4/17.5極大・9/18以降に静穏化した場合には11/10以降発生の可能性が示唆されることとなります。この場合K1の最近の特異は直前特異ではなく、まだ前兆期間の変動である可能性となります。本日午後から正常基線電圧値に復帰して来ましたので、仮に10/19終息としますと、11/11±3発生の可能性が計算されます。K1の完全終息も確認が必要です。八ヶ岳のCH29は本日10/18の未明まで特異変動が観測されています。仮にこの変動が最後で10/18.5終息とした場合は、11/12±3発生の可能性が計算できます。10/20以降もCH29に変動が継続した場合は11/12±2発生の可能性は考えにくくなりますので、完全終息まで待ちたいと考えます。ちなみに11/12±2発生推定が正しい場合は、このあとCH29もK1も静穏化し、静穏化基線が継続、その後、CH29には10/27±頃、K1には10/28±頃に直前特異変動が観測される可能性も示唆されます。



※火山から30km円内で八ヶ岳近傍かつ北よりの条件を加味すると図5斜線域となる。

- ◆推定領域：図4太線内 斜線域 火山近傍
図5斜線域=可能性考えやすい参考推定領域
- ◆推定規模：M8.0±0.3
直前に噴火前兆変動が観測されない限り
近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- ◆推定時期：(10月22日±2日 可能性低い)
11月12日±2日
但しCH29完全静穏化確認まで未決定
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：AM 9:00±2 又はPM 6:00±2